

校長室便り

(文責)

トー八
日本人学校
校長
酢谷昌義



準備運動にも力が入っていました

伸ばしたい「泳力・体力」

参観日・校外学習と木曜日の行事が続いたために、先週は久しぶりの水泳授業になりました。暑さは既に十分すぎるほどになっているので、子ども達はみんな水泳ができることをとても楽しみにしていました。2週間もあいていたせいか、いつも以上に元気よく精一杯泳いでいるように見えました。

個人差に応じた運動ができるという点で、水泳はとても良いものだと考えています。初心者には初心者なりの、上級者には上級者なりの適度な負荷をかけられます。これは多くの距離を泳いだ者の方が、そうでない者よりも負荷が大きいと単純には言えないということです。初心者が自力で5mあるいは10m泳ぐのは、上級者が50mや100m泳ぐ以上の体力を使っていることだってあるということです。

私はそういう見方で子ども達の泳ぎを見ていますが、みんな本当に良く頑張っています。

今年は全体を3つのグループに分けて始めましたが、先週の水泳でもどのグループも1時間みっちり練習に取り組んでいました。

水に対する抵抗感・恐怖心というのは、多くの場合自由に呼吸ができないことが原因となっています。ですから呼吸法(息継ぎ)の指導が最も大切になります。思うように息継ぎができるようになると、体もリラックスしてきてより良い泳ぎに変化していきます。

日本に比べてずいぶん多くの時間を水泳指導にかけられるのですから、子ども達の泳力と体力をしっかりと伸ばしていきたいと思っています。毎週1時間、子ども達が本気で取り組んでいる成果は必ず表れてきます。

いよいよ息苦しいほどの暑さの季節がやってきました。厳しい自然条件に負けず、子ども達の健やかな成長のために、水泳指導の時間を十分に活用していきたいと思います。

明日から 「放課後活動」 始めます

先週お知らせしたように、今週から放課後活動を始めます。明日は3年生以上ですが、下校時間が月曜日だけ異なりますので、ご理解ご協力よろしくお願いします。

「月曜日の下校時刻」

1・2年生 = 14:30

3年生以上 = 16:15

「月曜日以外の下校時刻」

全学年 = 15:30

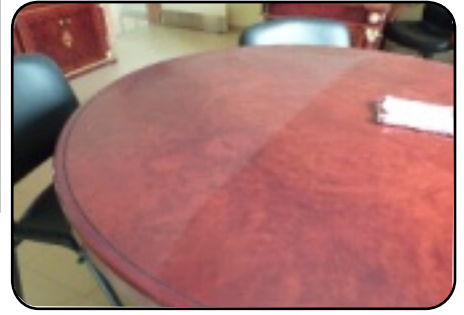
(木曜日はアスパイアから)



一斉に「バタ足練習」：昨年までと違ってプールが狭く感じられます

校長室便り

(文責)

 ドーハ
日本人学校
校長
酢谷昌義


机にたまった砂(左の白い部分)

すさまじい「砂嵐」

昨日の午前11時頃、突然校舎内が暗くなりました。つい先ほどまで窓からは強い日射しが差し込んでいたのに、一気に夕方にでもなったような感じを受けました。停電をしたわけでもなく、何だろうと思って窓の外を見ると、ものすごい「砂嵐」が起きていました。視界は20m程度だったでしょうか。玄関から見た駐車場の車でさえかすんで見えるような状況でした。

学校周辺は特に工事が多く、毎日のように砂ぼこりが舞っています。風の強い日には玄関にかなりの量の砂がたまります。それを毎朝アシュラフさんがきれいに掃き、そしていてねいに拭いてくれています。お陰で子ども達が登校してきたときには、いつもきれいな玄関で迎えることができます。昨日は午後からも掃除をしてもらわないとまらないほど、大量の砂がたまっ

てしまいました。

砂がたまるのは玄関や外回りだけではありません。風の強い日には、どこからともなく校舎内にも砂が入り込んできます。朝はきれいだった机の上が白くなっていることはしょっちゅうです。昨日は校長室の机の上がみるみる白く変わっていきました。パソコンの画面も砂でずいぶん汚れていました。とても目の細かい砂ですから、機械類には良くないだろうということも気になりました。

そんなに長い時間は続きませんでしたでしたが、カタルが砂漠地域の国であることが実感できました。年に何回か発生する深い霧もそうですが、計り知れない自然の力の前では、人間は無力であることを改めて考えさせられました。

砂嵐がおさまってから、低学年がタンポポの綿毛を飛ばしに玄関にやってきました。

「たんぼぼのちえ」という、2年生の国語で学習したことを実際に確かめてみようとしていたのだと思います。砂嵐はおさまっていても風の強い日でしたから、子ども達の手を離れたタンポポの綿毛は、風に乗ってみんな高く飛んでいきました。その綿毛に向かって「がんばれ!」と声援を送っている姿を見て、本当に素直な子ども達だと感心しました。

砂嵐というあまり経験できないことを目の当たりにした驚きと、子ども達の素直な優しさがとても嬉しく感じられた1日になりました。



タンポポの綿毛を飛ばす2年生



玄関から見た駐車場の様子



教室から見た校舎裏側の様子

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

スクールバスで緊急下校

自分の身は自分で守る

昨日今年度第1回の「避難訓練」を実施しました。理科室から火災が発生したという想定で行いました。

火災発生を知らせ避難命令が出てから、わずか2分足らずで全員が避難場所に集合しました。それぞれにハンカチで口を覆って、クラスごとに整然と避難することができました。避難場所から緊急下校のためにバスに乗り込むところまでを訓練しました。事前の指導がしっかりとしてあったにしても、誰一人おしゃべりをするものもなく真剣に取り組んでいたのは素晴らしいかと思います。

バスを降りてホールに戻り次のような話をしました。

災害はいつ・どこで起きるか分からない

訓練が真剣にできなければ実際の災害で対応できない
自分の安全は自分で守らなければならない

この中で最も重要なことは
「自分の安全は自分で守らなければならない」ことだ



みんなが整然と避難しました

と思います。しかしこれは避難訓練をしたから身につくというものではありません。普段から自分で考えるという訓練を積み重ねておくことが必要です。「私は 思う」という自分の考えを持ち、それをきちんと表現できるようにしておくということです。子ども達には、毎日の授業はそういう力をつけていく場でもあることを話しました。

もっと広くとらえると、自分の考えを持つことが自立した人間への第1歩だと考えます。正しいか間違っているのではなく「私は 思う」とははっきり表現できないよう

遊びの変化

初めての ドッジボール!

子ども達が休み時間にドッジボールをするようになりました。昨日初めてその様子を見ましたが、今日もドッジボールで楽しそうに遊んでいました。児童生徒数が増えたことで、遊びのバリエーションも増えとても良いことだと思っています。

ボールを投げるような投運動は、手と足そして体全体のバランスがうまくとれて初めて、遠くや思ったところへ投げることができる運動です。

では、生きる力はとても身につけられません。

もともと人間が持っているはずの、危機を察したり回避したりする力を高めることも、今の時代だからこそより大切だと考えることが必要ではないかと思います。そんな思いを込め子ども達に話しました。



スクールバスの安全について

ところが体力テストの結果からは、この力がずいぶん落ちてきています。その傾向はドーハ日本人学校にも当てはまるのではないかと思います。

運動に関する様々な能力を、多くの場合子ども達は遊びを通して身につけていきます。だからこそ遊びの時間を大切にしていきたいと思っています。



ドッジボールで盛り上がっています

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

集会時の聞く態度は立派です

「聞く力」を育てる

学力を新しく身につけるためには、聞く力と読む力が基本であるということについて少し以前に触れました。聞く力の重要性についてもう少し考えてみたいと思います。

聞く力は学力獲得の基本であるだけでなく、コミュニケーション力の基礎でもあります。人間関係を円滑にしたり深めたりしていくためには、話すこと以上に聞くことができなければなりません。ところが多くの場合、聞くことよりも話すことの方が重要視されているのではないかと感じます。プレゼンテーションをはじめ日本人は特に表現力に問題があるとされるので、どうしても話すことの方に目が向いてしまうのかもしれませんが。

もともとコミュニケーションが成立するためには、話す人はもちろんですが聞く人がいるということが大前提です。相手の言うことを聞くことなしに、お互いがお互いの言いたいことだけを並べ立ててもそれでは会話になりません。



しっかり聞きながら話し合い

「聞いてもらえる」という安心感がなければ、本当に言いたいことは言えず会話として成立しないのだと思います。

話すこともですが、聞くことはそれ以上に訓練が必要です。子どもの成長を考えてみるとよく分かります。幼い子どもでも自己主張はできますが、聞くことはできません。自分に言いたいことがあればいくらでも話しますが、いやなことは少しも聞こうとしません。人の話がきちんと聞けるようになるためには、それなりの訓練が必要なのです。

その初期は当然強制で始まり苦痛も伴います。しかし聞く力を身につけるかどうかは、その後大きく影響してきます。学習面はもちろんのこと

対人関係においてもです。

ではどういう訓練をしなければよいのでしょうか。最も大切なことは、人の話をとにかく「最後まで聞く」ことです。決して「途中で口をはさまない」ことです。分かって分がらなくても、楽しい話でもそうでなくても、最後までしっかりと聞くことを繰り返さなければ身につけません。それ以外にも子どもは大人の話に口を出さないなど、自分が理解できない話に関しては静かにしている。まずは観察し学習すること。こういうこともきちんとしていかなければなりません。「聞く力」を身につけるかどうかは、本当に重要なことだと思います。

カタール大学の学生にお話を聞かせてもらいました

昨日カタール大学の学生がやってきました。低学年の子ども達に読み聞かせをしてくれるということでしたが、実際にはいろいろなお話を聞かせてくれたようです。それも全て英語によるものです。

学生の方は一生懸命話してくれましたが、子ども達にはうまく伝わらなかったように見えました。しかし、子ども達は本当に良く聞いていました。良く我慢もしていました。

みんながとても良く頑張った1時間だったと思います。

子ども達はこの時間、一生懸命「聞く」ことを実践していたように思います。



一生懸命お話を聞いています

校長室便り

(文責)
ドー八
日本人学校
校長
酢谷昌義



児童生徒会執行部

自主的・実践的な態度

ドー八日本人学校では、全校児童生徒で委員会活動を行っています。目標は「活動を通して望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてより良い学校生活づくりに参加し、協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる」ことです。

そのためには、子ども達に活動の時間を確保しなければなりません。しかし昨年度はその時間の確保がなかなかできませんでした。そこで今年度は、月1回第3水曜日の放課後を委員会活動の時間として設定しました。放課後活動の日もありますが、委員会活動を優先し、余裕があれば残った時間で放課後活動を行うことにしました。

昨日は設定した委員会活動の第1回目でした。どの委員会も活動を充実させるための話し合いや、独自の取り組みに一生懸命頑張っていました。小学部1年生から中学部まで一緒に活動するわけですから、話し合いにしてもなかなか難しいところがあります。こういうことを積み重ねていくことによって、それぞれが立場の自覚というものを身につけていくのだと考えます。



図書太郎委員会



生活安全委員会



昼食委員会



美化委員会

小学部1年生に 体験入学生

今日1日のことですが、小学部1年生に体験入学生がありました。ドー八日本人学校への編入を前向きに検討してみたいので、学校生活や授業の様子などを体験させたいということでした。

子ども達のすごいところはすぐに仲良くなれるところです。今日は朝読書の日でしたが、その時間からもう溶け込んでいるように見えました。

6月のオープンスクールをはじめいろいろな機会を通して、ドー八日本人学校のこと・子ども達が頑張っている様子などを、広く知っていただくことができれば良いと考えています。



1・2年生の授業「算数」